

事例研究報告

特別支援学校中学部生徒に対する
自ら適切な行動選択が
できるようになるための指導

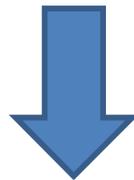
生徒の実態

【学校生活】

- ・ 人との距離がかなり近く、ボディタッチが多い。
- ・ 気持ちが不安定なときは、さらに人との距離が近くなる（付きまとう、抱きつく、手を握るなど）。
- ・ 自分ですることを見つけて取り組むことが苦手。
- ・ 感情の浮き沈みが激しく、自分で感情をコントロールすることが難しい。

指導場面について

- ・ 帰りの会終了後～下校までの約5分間。
- ・ 帰りの会以降、スケジュール上の活動は終了しているため、自由時間となっている。



- ・ 転入後は、帰りの会終了後すぐにカバンを背負い、友だちの後をつきまったり、ボディタッチが3回ほどあったりした。
- ・ してもいいことを3個程度選択肢を提示していても、そこから自分で選択して取り組む様子は見られなかった。

教員の願い

- ・ 友だちと適切な関わり方をしてほしい。
- ・ することが決まっていない時間においても、自分ですることを決めて取り組んでほしい。



アドバイザーからの助言

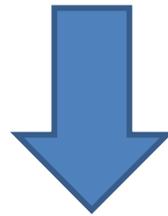
・人から頼られることが好きであることを活かして、「先生の手伝い」ができる時間にしてはどうか。



介入1

助言を受けての見直し①

帰りの会終了後10秒以上何もしない場合



教員に提示された手伝いボードから、手伝いたい教員を選択し、手伝いをする。

介入1

助言を受けての見直し①



- ・セリフカードを準備。
- ・常時、この状態で黒板に掲示。
- ・3人の中から選択する。

介入1

指導の手続き①

- ① 帰りの会終了後、座ったまま動かなかったり、窓の近くへ行き外を眺めていたりしたら、「今時間ある？困っているから手伝ってほしい。」と伝え、ボードを提示する。
- ② 「手伝いましょうか？」と要求された教員は、内容と終了後に報告することを伝える。
- ③ 終了の報告を受けたら、「本当に助かった！」
「手伝ってくれてありがとう！」などたくさん褒める。

介入2

助言を受けての見直し②

手伝いボードをメリハリあるものに！



手伝いボードと教員の写真を常時黒板に貼っていたが、帰りの会終了後に写真を貼り、「今、手伝ってほしい」ことを知らせる。

介入2

助言を受けての見直し②



- ・教員の写真だけを掲示。
- ・帰りの会終了後に写真を貼る。
- ・普段はホワイトボードのみの状態。

介入2

指導の手続き②

- ① 帰りの会終了後、手伝いボードに教員の写真を2人分貼る。
- ② ボードを見ても動かない場合は、教員が近くでつぶやいたり、直接言葉がけをしたりして、手伝うように促す。
- ③ 「手伝いしましょうか？」と要求された教員は、内容と終了後に報告することを伝える。
- ④ 終了の報告を受けたら、「本当に助かった！」
「手伝ってくれてありがとう！」などたくさん褒める。

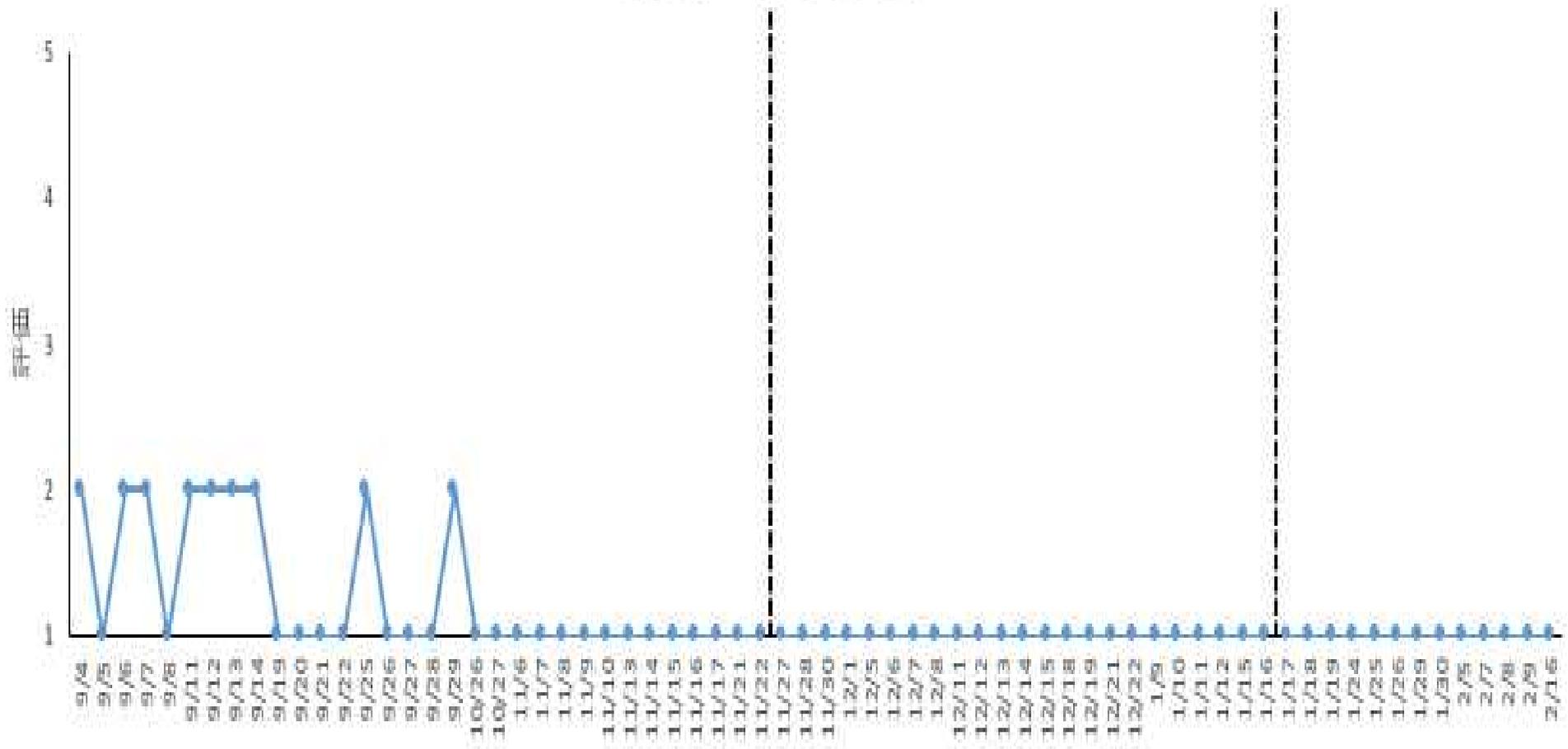
記録方法と記録

- ・ 帰りの会終了後～下校（教室を出るまで）の動画を撮り、ボディタッチの回数、対象生徒の動きを確認し、記録用紙に記入する。

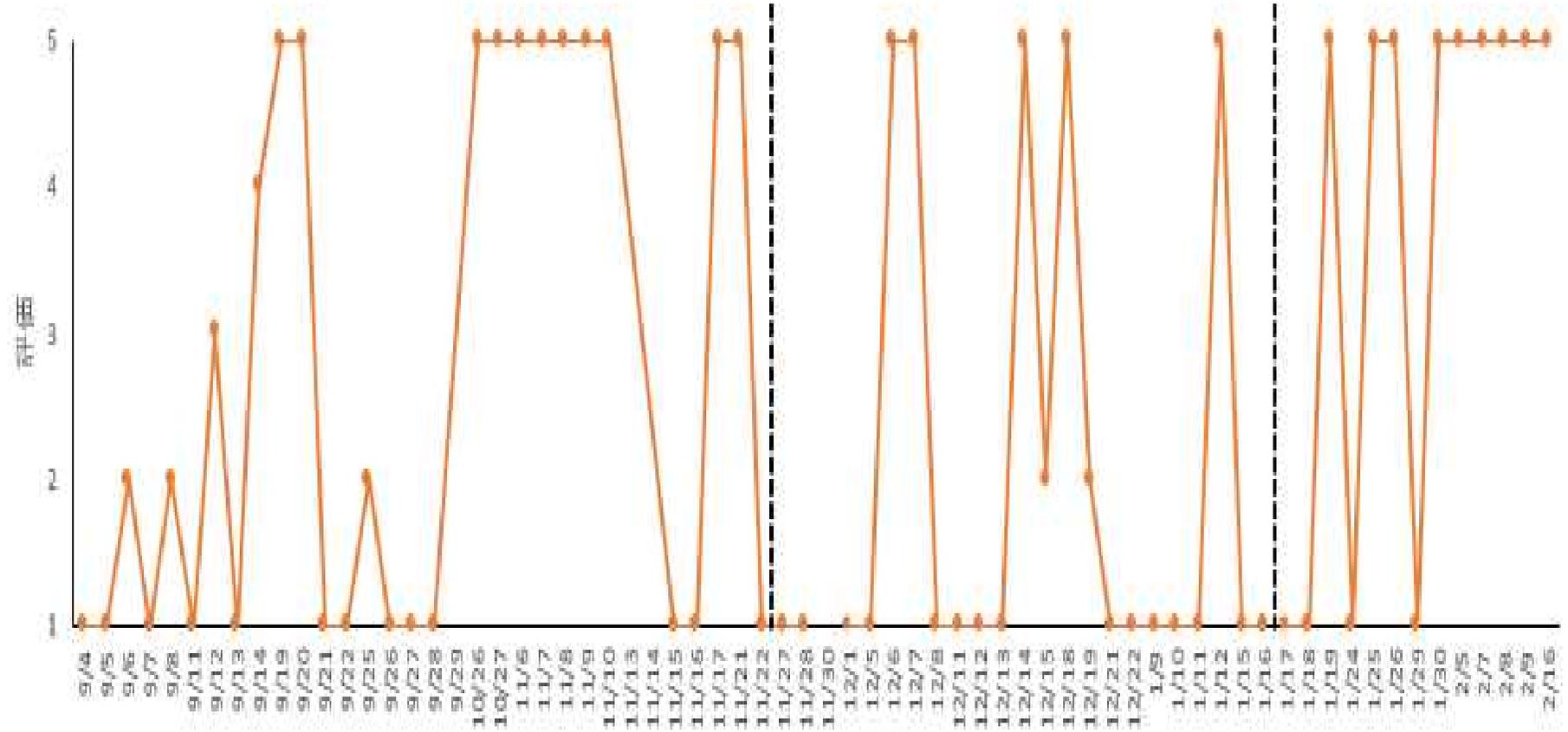
個別行動評価尺度ツール（記録用紙）

行動	評価	日付																	
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
友だちへのボディタッチ	10回以上	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	7～9回	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	4～6回	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	1～3回	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	0回	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
自分ですることを決めて 実行する	76～100%	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	51～75%	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	26～50%	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	1～25%	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	0%	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
先生の手伝いをする	した	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	しなかった	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

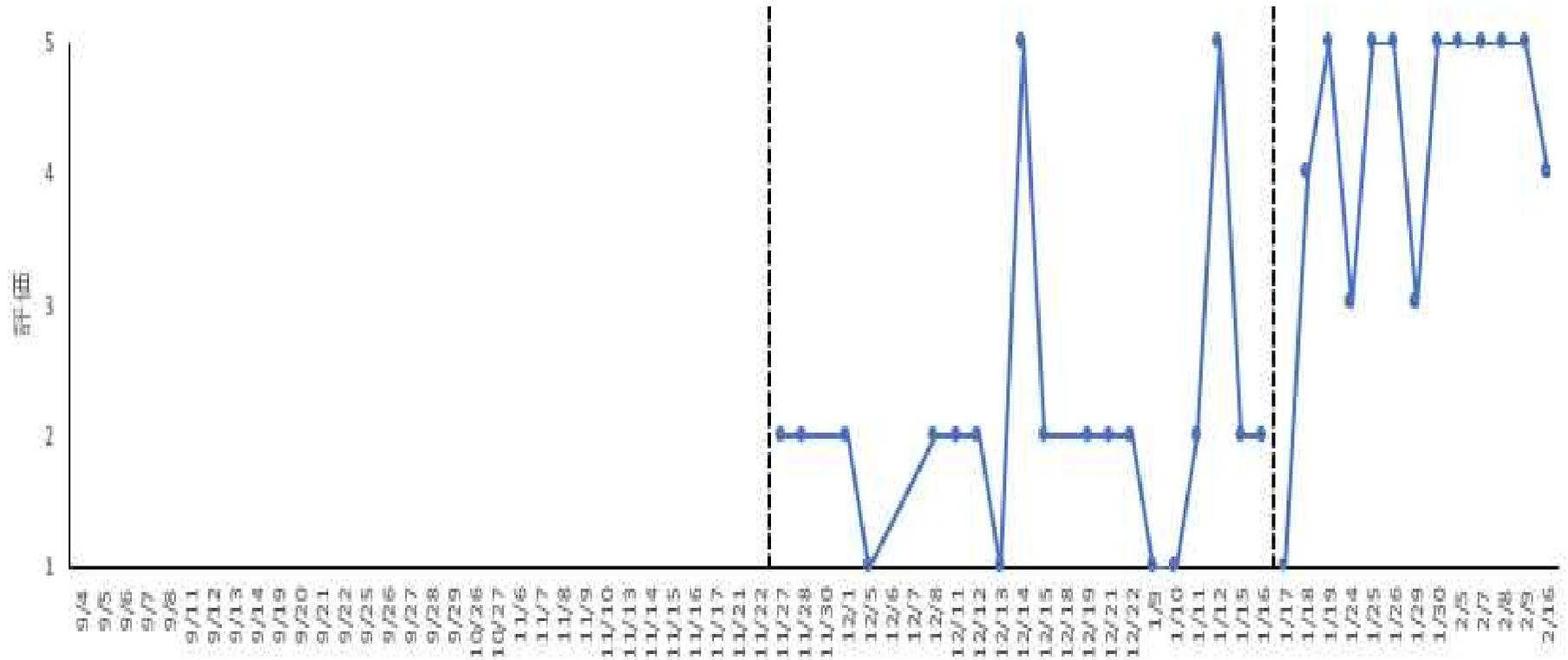
友だちへのホテイタッチ



自分ですることを決めて実行する



先生の手伝いをする



指導の成果

- ・人に頼られる経験が増えてきたことで、物事に対して自信を持って取り組むことができるようになった。
- ・一人で遊ぶ、疲れたから休憩するなど、自分ですることを見つけて一人で取り組む機会が増えた。
- ・周囲からの目を気にして、友だちと関わろうとするのではなく、自分が関わりたいと思うときに関わるようになった。

ここが成功のポイント

- ・ 手伝いの機会が増え、人に頼られる経験が増えてきたことで、自己肯定感が高くなった。
- ・ 朝の日生でしている仕事と関連した手伝いを依頼することで、自信を持って取り組むことができた。

